

第58回近畿実業団バスケットボール選手権大会

男子決勝 戦評

月日:2013年10月13日(日)

時間:15:00

会場:大阪市中央体育館 サブアリーナ

黒田電気 (大阪) 81	16 - 21	71	タツタ電線 (大阪)
	24 - 11		
	13 - 14		
	28 - 25		
	-		
主審 : 北浦敬史 (大阪)			
副審 : 細見竜太 (大阪)			

大阪で優勝し、7年ぶりの優勝を目指す第1シードの黒田電気と7連覇を目指す第2シードのタツタ電線との8年連続の同じカード。

お互いにマンツーマンディフェンスでスタート。黒田⑨の2Pで試合が動き出す。タツタは⑥などのシュートで対抗。残り6分を過ぎると両チームともメンバーチェンジを行い、局面打開を図る。ここでタツタが先手を握って、試合を進める。黒田も食い下がるが15-21のタツタ6点リードで1Q終了。2Qに入ると一転して、黒田が先手を取る展開で⑨を中心に差を縮める、7分を切ったところで26-25と黒田は逆転に成功するも、タツタの踏ん張りで残り4分には28-29と再逆転。その後は一進一退の攻防が続き、残り1分を切ったところで、黒田がスパートし、40-32の黒田8点リードで前半を終える。3Qはタツタ⑮の2Pで試合が動き出す、互いに思うよう点が伸びない。残り5分を切っても、47-39の黒田8点リードの膠着状態。ここで、タツタが連続2Pで44-49の5点差に追い上げ、黒田がタイムアウトを要求。再開後、黒田の動きが良くなり連続2Pで応戦。3Qを53-46の黒田7点リード。4Qに入っても、黒田は3Q終盤の良い動きが続き、先手を取り、連続5ゴールで63-46と点差を17点とした残り7分すぎ、タツタがたまたまタイムアウトを取る。タツタも必死に反撃をするも、黒田もしっかり対応し、リードを保つ。最後は、黒田電気が81-71で7年振り9回目の優勝を遂げた。

第58回近畿実業団バスケットボール選手権大会

女子決勝 戦評

月日:2013年10月13(日)

時間:13:20

会場:大阪市中央体育館 サブアリーナ

紀陽銀行(和歌山) 61	15 - 18	81 滋賀銀行(滋賀)
	10 - 18	
	24 - 27	
	12 - 18	
	-	
主審:早崎康祐(兵庫)		
副審:田中真規(大阪)		

今年度の決勝は2年連続優勝を目指す紀陽銀行と王座奪還を期す滋賀銀行との昨年と同一カード。滋賀の⑦の3Pでゲームが動き出し、滋賀が⑩の連続2Pで0-7としたところで、紀陽銀行はたまたま、タイムアウト。その後、滋賀のファールかさみ、それに乗じ、紀陽も得点を重ね、残り2分には15-14と逆転はしたが、滋賀も踏ん張り、1Qは15-18の滋賀3点リードで終了。2Qに入り、互いにマンツーマンでディフェンスを頑張り、一進一退の攻防が続くが、滋賀が先手を取る展開で徐々にリードを広げ、25-32の滋賀7点リードの残り1分25秒で紀陽タイムアウトを取り、立て直しを図るも思うようにいかず、25-36の滋賀9点リードで折り返す。3Qも滋賀が速攻でスタート。紀陽は⑭を中心にオフェンスを組立て食い下がるが、滋賀のいいリズムをなかなか崩せない。残り4分を切り、紀陽はリバウンドを頑張ることで勝機を見出そうとするも、滋賀も⑧の3Pなどで対抗。残り1分を切り、滋賀④の速攻もあったが、紀陽⑫の3Pブザービーターがあったものの3Qは49-63の滋賀14点リードで終える。4Qも滋賀の速攻からスタート。滋賀が先手を取る展開は変わらず、⑦⑫を中心に一気にスパート。残り7分で49-70の21点と滋賀のリードが広がり、紀陽がタイムアウト。しかし、滋賀の多彩な攻撃は続く。紀陽は⑤の3Pで必死に対抗するも、最後は滋賀銀行が60-81で2年ぶり10回目の優勝を飾った。